

## 第7回 伊能測量を契機に正確な地図を作った松江藩の人々

松江藩領の精密な地図「出雲十郡絵図」(写真1)は、郡村の境界・村町名や大字・農作地の様子・山の名前・街道や一里塚の場所・番所や川方役所など江戸時代末期の松江藩域の地理情報が網羅されています。

写真1 出雲十郡絵図:島根大学附属図書館蔵



この地図は文化三年(1806)に伊能忠敬測量隊が出雲国を測量したすぐ後に藩の命を受けて作成をはじめ、文政四年(1821)にできた伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」(写真2)より早く完成しています。斐伊川の流路の変遷や新川の開削など、そのつど新たな版がつくられ明治初年まで松江藩の行政地図として活用されました。十郡絵図と伊能図を出雲国部分だけ現代の地図と重ね合わせて比較してみると、海岸線を主体にした伊能図よりも正確で、海岸線もより詳細に描かれていることがわかります。

写真2 大日本沿海輿地全図・部分・伊能図フロア展中央委員会提供



「出雲十郡絵図」の測量製図にあたったのは松江藩士の神田助右衛門と新二の父子です。彼らの祖父も安永九年(1780)に「寸里道地図」(写真3)という、松江から江戸までの正確な距離を測った道路地図を作り、参勤交代や藩士の出張の旅に利用されています。

なお「寸里道地図」は2010年の秋に松江市史編纂に伴う資料調査の過程で新発見され、今春の歴史地理学会誌に掲載されることになりました。

写真3 寸里道地図・部分・個人蔵



このように神田家は三代にわたって藩の地図づくりの実務を担った家です。助右衛門は文化二年(1805)に「幕府天文方(=伊能忠敬測量隊)のために事前に藩内を測量し、その情報を提出せよ」との命を受けて働いている様子が「雲藩列士録」(写真4)に確認できます。また測量隊につき従って地元情報を提供し、測量の便宜をはかるために賄方(まかないかた)という役職を務めている事が伊能忠敬測量日記に見えます。

一回三丙寅年二月 日不知天文方父  
 史用之法繪出極星極星  
 作付清城下并中海湖外端  
 繪出方より極星出処同七月  
 天文方法越く上右繪出西へ通  
 外海端并梓築分平由と並置  
 依既川神立湖外未成書か極  
 星出極方至極星北極天文方隣  
 國分帰帆より合極星 極付  
 一文化三丙寅年十月二十日繪出  
 津内周付極星出極星 極付

地元の協力なしに地図の作製はできません。伊能測量隊の受け入れに関する史料は郡役や村役を務めた家々にわずかに残っていますが、出雲市下古志町の旧家・高見家(屋号・大門)には伊能隊の測量や神田親子の測量にも協力したことが、当主である高見長行の日記「長行歴録」に記されています。

文化二年(1805)には「村絵図の作成を藩から命じられ上古志村と下古志村の東西八丁、南北一里二十一丁の範囲で絵図を作成」とあり、伊能隊の測量のために村独自で絵図を作った様子です。

文化七年(1810)には「9月26日より10月3日まで神田助右衛門と申す御奉公人親子御出で、村役人案内にて村々より人夫出させ、道・輪・境・寺社領敷地・宇賀池など四方に竿打ち、分間絵図お拵えなされ候」と神田父子が一週間もかけ古志村周辺を測量するのに立ち合い、境界論争のある野山の境や辻堂の位置、50石以上の土地持ち百姓の書出しなど詳細な情報を伝えていることが記録してあります。この時点で「十郡のうち島根・秋鹿・出雲・神門まで最早でき申す由」とあるので、半島部から山間部へ向けて測量が進んでいることがわかります。なお「輪」とは松江藩独自の租税対象地名のことです。

文化十年(1813)には「10月27日、江戸天文方伊能勘解由様ほか下役人衆三人、かどの往還へ竿打ち…」と自宅前の街道を伊能測量隊が測っている様子が書かれており、高見氏自身も「上下一村の明細帳を差し出し、一緒に案内いたす」と同道しています。下記の数字は伊能忠敬が測った北極星・地球・太陽・月の記録を高見氏が日記に書き写したのですが、これは新しい科学知識が地元へ受容された証拠になる感動的な史料だと思います。この「長行歴録」の解説したものは出雲市立出雲中央図書館で閲覧が可能です。

出雲国島根郡松江城下末次町 北極出地35度27分半

同国神門郡宮内村杵築町 北極出地35度23分半

地球周 360度 地球上1度28里 36町為1里 60間為1町

同 1万80里 地全径3千2百8里564

日 天高 3千3百8万9千9百17里23

同 全径 30万9千9百47里28

月 天高 9万5千9百3里98

同 全径 8百74里654

測量使 伊能勘解由藤忠敬

文化十癸酉閏十一月

右蒙 台命文化三丙寅年測量海辺之日於各所測之

\* 史料の引用に際して、閲覧の便を図りアラビア数字を用いたが、原文は漢数字。

(平成 23 年 4 月 1 日 絵図・地図部会 乾 隆明・面谷明俊)